

今回は 夏休みに行われた関ジモト大学 の報告（その2）です。

## ◇ オンラインセミナー「関ジモト大学2022 online」

今年度は、昨年度に引き続きオンラインセミナーを実施しました。関市で活躍する「せき・まちづくりNPOぶうめらん」が主催する「関ジモト大学 online」の場をお借りして、関市内の19企業と各企業のSDGsに関わる取り組みについての話を聞き、生徒が意見交換を行いました。

## ◇ 企業紹介

### 【株式会社 大野ナイフ製作所】

大正5年（1916年）に創業以来、培ってきた様々な伝統技術と職人技の蓄積に最先端のテクノロジーを融合させ、最高級の美術工芸品ともいえる「魅せる包丁」を開発・製造、主に欧米の富裕層向けを狙った包丁を製造。



【HP】 <http://l.onoknife.com/top/>

関連する SDGsの 目標	3 すべての人に健康と福祉を	5 ジェンダー平等を実現しよう	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	12 つくる責任 つかう責任

## ◇ 関ジモト大学を受けて 生徒の感想

関市は刃物が有名だと昔から知っていたけれど、ドイツ、イギリスと並ぶ世界三大刃物生産地であることにびっくりした。関市の刃物は日本だけでなく世界中で使われている商品だと知って、関市にも良いところがあると感じた。大野ナイフ製作所さんの話を聞いて、野菜などを切る単純な作業をするためにある包丁も、作成には、最高で120の工程が必要になることが分かった。また、普通分業して行う作業を、会社を20部署に分けることで、会社内ですべて解決することが出来ることを知った。また、その作業にIoTを活用して生産作業現場の管理を楽にすることで、それが従業員の残業時間の削減にも貢献していると知って、最新の技術はすごいと思った。

SDGsに関して、中小企業単位での達成は厳しい中でポリ袋使用を削減したりトイレの提供を行っていたりしている。そして何より会社を大きくすることが貢献への一歩だと話していた。大野ナイフさんは100を超える工程を踏んでナイフ制作を行っている、またそのうちの5つくらいがロボットによる工程だとおっしゃっていた。また見える化をすることで20もの部署の作業

の進み具合がすぐ見られるようになった。海外でも活躍されているらしい。

私が、大野ナイフ製作所で凄いと思ったことは、3つあります。

1つ目は会社の中の「見える化」が凄いと思いました。20もある部署の生産進捗が図になっていて、見るだけで理解することができました。部署ごとで、進捗がわかるので全部の部署が残業になることもなくなったと聞いておどろきました。

2つ目は、会社のロボットの導入です。ロボット導入で、より早く生産出来るようになったそうです。人より早く生産することは可能になりましたが、繊細な部分は職人さんの力で仕上げていました。

3つ目は、SDGsの関わりについてです。合計で10個のSDGsにかかわっていました。私自身が、調べたいと感じていた、8「働きがいも経済成長も」もありました。

私はこんなにも凄い会社が、近くにあることに驚きました。自分の興味のあるものをもっと探して行きたいと感じました。

歴史ある伝統技術や職人技と、IoTを使用したロボットやSQL利用による作業の可視化が共存する温故知新の会社だと思いました。SQL(データベースを操作する言語)を駆使し、効率的にそれぞれの部署の仕事の進捗状況を把握し分析することで、残業時間のカットに成功した事や、「関市女性が働きやすい職場認定事業所AA認定(優良)」に選ばれ、女性の管理職が在籍し、従業員の4割が女性で活躍している事など、素晴らしいと思いました。

IoTによる見える化で、たくさんある部署について、効率的に管理するだけではなく、残業が必要かどうか分かってきたり、機械と人との共同作業をすることで、労働効率や、労働問題にも、目を向けていることが分かった。特に、今問題となっている男女の格差をなくすように、男女の労働者比率が半々になっているところがすごいと思った。そして、高齢者の生きがいをなくさないように、積極的に雇用を行っているところが、高齢化社会によく対応していると思った。

関市が包丁で有名なことは知っていたけれど、世界三大刃物産地にまでなっていることは初めて知りました。大野ナイフ製作所では職人の歴史的な技術と最先端のロボットを駆使したテクノロジーの融合によってより良い刃物を作り出しているとの事でした。100工程もある工程のうちロボットが行なっているのは6工程だけだが、それだけでも十分楽になっていると聞いてロボットの力は偉大だと感じました。IoTを利用した見える化によって残業時間の短縮が行われていて、社員向けの会社だと感心しました。また男女間の平等という面で、特にSDGsの取り組みを行っていて、さすが長年愛される会社だと感じました。

今回は貴重なお話をお聞きすることができました。関市は刃物で有名ですが、詳しいお話を聞いたことはありませんでした。

大野ナイフさんは、生産の効率化のためにロボットを取り入れており、とても最先端だと思いました。また、IoTを使用した「見える化」によって各部署ごとで生産の進み具合を管理でき、それによって残業時間が削減されていると知り、従業員が働きやすい環境となっていると思いました。SDGsの活動もたくさんされており、とても良いお話が聞けました。

関市は日本三大刃物町であり、世界三大刃物町であることを知りました。大野ナイフ製作所さんのSDGsの取り組みはいろいろあり、その中でも老若男女問わず雇用することがとても印象に残りました。やはり、工業系の会社だと若い人の方が力もあって役に立つことが多いと思

ますが、それでも大野ナイフさんでは積極的に高年齢の方を雇用されていると聞いて、全ての人に平等に接していて素晴らしいと思いました。

大野ナイフ製作所では、SDGs に多く取り組んでいて、女性の就職率および職場復帰率が高いことがわかり、すごいと思った。『エネルギーをみんなにそしてクリーンに』の項目では、環境により自動洗浄機を導入するなど、環境に配慮したものを入れている、良いと思った。パートタイムの人を正規雇用にするなど、経済成長の面でもとても面白く、良いと思った。まずは会社を大きくすることが世界平和への一歩という言葉がとても心に残った。企業の SDGs へのとりくみを見て、いろいろなことを知ることができて面白かった

関市が世界三大刃物産地であることは初めて知ったので、驚いた。刃物をより多く生産することも良いことだと思ったけど、一つ一つ丁寧に価値の高いものを作ることで、作る責任、使う責任をより大切にしている良いと思った。また最新技術やテクノロジーをうまく取り入れた生産をされていてすごいと思ったし、働きやすい職場づくりに他の企業より積極的に取り組んでいて、この良さをもっと広めたいと思った。一見関係ないと思われるような SDGs の項目にも関連した取り組みを行っているということに驚いた。

積極的に SDGs に取り組んでいるところがすごいと思いました。また、IoT による見える化によって残業が減るのは社員に優しいと思った。機械を使った方が効率が良いところもあるが、職人の技術が欠かせない部分もあると知って、このような技術は受け継いでいかないとけないと思いました。

関市は最初から包丁が有名だと思っていました。でも、元々よく作るのが刀で、時間が経つにつれてあまり売れなくなっていったことで、包丁にうつっていったということを知り、びっくりしました。そして、包丁を作る場所でも機械化が進んでいて、ロボットが使われていることにすごいなと思いました。でも 100 工程ある中で 5 工程しか使用されておらず、人の手がどうしてもかかってしまって大変だなと思いました。

職人の技術と最先端テクノロジーによって生産力がアップして、それによって経済も成長しているので良い循環が生まれているなと思いました。また、私が一番驚いたのは、従業員に対する環境の良さという点で、ヘルシー弁当や運動部、インフルエンザワクチンの負担など会社の利益になる訳でもないのに、そこまで考えているところがすごいと思いました。もし自分が今就職活動をしていたら、働いてみたいなと心から思える会社だなと思いました。そして、刃物と聞いた時にあまり SDGs と関係がないと思っていたけど、結構関係していて世界に貢献しているなと感じました。